



ボタン電池の誤飲に注意

事例 1

息子がタイマーのふたを取って遊んでいるのを母親が発見したが、その中にあるはずのボタン電池が見当たらなかった。腹部レントゲンで胃にボタン電池があることを確認したため、マグネットカテーテルで摘出してもらった。

(1歳 男児)

事例 2

娘が口を動かしているのを上の子が見つke、口の中をのぞくと懐中電灯のボタン電池が1個あった。3個あるはずのボタン電池の残り2個はどこにも見当たらず、医者に行って胃の中にあるのが分かった。すぐに胃洗浄して取り出してもらい、1日入院した。

(1歳 女児)



ひとことアドバイス

- ボタン電池を誤飲すると、放電で起こる化学やけどにより「消化管に穴が開く」「潰瘍(かいよう)ができる」などの重大な事故につながる場合があります。
- ボタン電池は、リモコン、キッチンタイマー、体温計など家庭内にある様々な商品に使用されています。
- ボタン電池を使用した商品の中には、工具等を使用しなくても電池が取り出せたり、床への落下で電池が飛び出たりするものもあります。誤飲の恐れがありますので、絶対に乳幼児の手の届かないところへ保管してください。
- ボタン電池を誤飲した場合は、すぐに医師の診断を受けましょう。

